

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370554

研究課題名(和文)「書き言葉的」と「話し言葉的」という文体差のある語の分析

研究課題名(英文) Analysis of words specific to the style of "writing" and "speech"

研究代表者

柏野 和佳子 (KASHINO, Wakako)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音声言語研究領域・准教授

研究者番号：50311147

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：「書き言葉的」な語で記述すべき学術的文章(レポート, 論文等)に「話し言葉的」な語が混じるという問題を解決するために、「書き言葉的」「話し言葉的」といった注釈のある語を作文技術に関する文献等から1,900語抽出した。これらには接続表現・副詞が多く、それに文末表現が続く。そのうち5件以上の異なる文献で言及のあった154語を対象に、学術的文章への使用可否に関して、品詞・意味別、主観的判断による使用の目安別(a:避けるべき, b:避けた方が望ましい, c:使用に注意が必要, d:使用可)に分類した。

研究成果の概要(英文)：To solve the problem of "spontaneous" words being mixed in academic texts (reports, articles, etc.) that should be described in "written verbal" words, words with annotations such as "writing style" or "spontaneous" 1,900 words were extracted from literature on composition techniques. Then, we chose 154 words mentioned in more than five different literatures, and appropriateness of using in academic documents is categorized in terms of lexical categories, meaning, and subjective judgment (a: inappropriate, b: better not to use, c: should be carefully treated (e.g. can be unnatural depending on context), d: mostly usable).

研究分野：言語学・日本語学

キーワード：文体 書き言葉 話し言葉 辞書 位相 文章作成 学術的文章 コーパス

1. 研究開始当初の背景

近年、SNS等のインターネット上では「話し言葉的」な語が書き言葉として多用される傾向がある。その影響もあり、「書き言葉的」な語で記述すべき学術的文章(レポート、論文等)に、「話し言葉的」な語が混じるといふ問題が大学教育や日本語教育の現場でしばしば指摘されている。

学術的文章作成の指南書は数多く出版され、大学等ではアカデミックライティングの指導が行われている(例えば、二通ほか2009、仁科2012、佐渡島・太田編2013)。また、学術的文章の作成を支援するために、教科書コーパスを利用し、学術的文章に多用される用語集を作成する試みが行われている(堀ほか2013)。

しかしながら、学術的文章で用いるとよい語とそうでない語というような、文体差のある語の組を網羅的に調査する文献や先行研究は残念ながら見当たらない。

佐渡島紗織・太田裕子(編)(2013)『文章チューティングの理念と実践—早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房。

仁科喜久子(監修)(2012)『日本語学習支援の構築』凡人社。

二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会。
堀一成・坂尻彰宏・石島悌(2013)『BCCWJ 教科書データより抽出した頻度情報に基づく日本語ライティング指導教材の作成』『第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』pp.45-52。

2. 研究の目的

関連文献より文体差のある語の組を可能な限り網羅的に収集し、それらを品詞別、関連する項目別、使用の目安別に分類し、学術的文章作成時に留意すべき語の一覧を示すことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1)文献の収集方法

次の方法で収集した。

表1 関連文献調査のための検索ワード

書き言葉	話し言葉		
論文/レポート・言葉	論文/レポート・文章		
論文/レポート・文体	論文/レポート・書き方		
学術的・文章	学術的・文体	文体的特徴	
文章語	文章表現	文章指導	文章作法
アカデミックライティング	論文指導		
[著者名] (書き言葉/話し言葉の文献著者名)			

WEB 検索

表1の検索ワードに基づきWEB上で検索した文献をWEB上にて閲覧、または国語研図書室、購入等により、閲覧して確認。

参考文献一覧の参照

収集済み文献が参照している先行文献を確認。

国立国語研究所研究図書室の参照

文体論、文章指導、日本語学習テキストなど、該当書架を確認。

以上より、日本語学習者、大学生、社会人、日本語教師、日本語研究者向けなどの書籍約170冊、論文約290本を収集した。

(2)文献からのデータ抽出

収集した文献のうち、書籍32冊、論文31本より「書き言葉的」と「話し言葉的」として示される語、ならびに、表現を抽出した。「書き言葉的」と「話し言葉的」なものがペアで示されているものはペアとして抽出した。

例えば、次のような語である。

ペアの例： 書き言葉的 / 話し言葉的

できる限り / できれば 今後 / これから
さき よって / なので 高齢者 / お年寄り

単独の例： 書き言葉的

上述の 指示表現に類するはたらきを持つ表現。

いっこうに 小論文を書くときに使う主な副詞。否定を表し「～ない」などと呼応する。

単独の例： 話し言葉的

だいたい 大ざっぱな認識論文で避けられる傾向にある言葉

なんと... 感情を表す表現(客観的に書くには、感情・評価を表す表現を使わず、なるべく具体的に書く。)

抽出した語は、ペア1,172語、単独：書き言葉的581語、単独：話し言葉的364語であった。文献により「書き言葉的」とする語と「話し言葉的」とする語とが重なることが少ない。例えば、書き言葉的「とても」は話し言葉的「とつても、すごく」の組として示されている。一方、話し言葉的「とても」は書き言葉的「たいへん、非常に、極めて、著しく」の組として示されている。つまり、「とても」は両方の語として挙げられている。これは、森山(2003)が話し言葉と書き言葉の違いははっきり分かれるものではなく、段階的なものであると述べている通りである。着目する段階によって、同じ語が「書き言葉的」とされたり、「話し言葉的」とされたりするのである。それらの重複を除いた異なり語は約1,900語であった。

森山卓郎(2003)「話し言葉と書き言葉を考えるため

4. 研究成果

(1)分類

抽出した異なり約 1,900 語のうち, 5 件以上の異なる文献で言及のあった 154 語を対象に, 主に品詞により, 次の通り分類した。言い換え可能なグループとして関連する語の見通しがよくなるよう, a~c はおおよその意味による下位分類を行った。

- a. 接続 (接続詞・接続助詞・接続表現)
- 言い換え, 逆接, 順接, 説明, 選択, 添加, 転換, 並列, 補足
- b. 副詞 - 時間長, 十分, 推量, 断定, 程度高, 程度低, 当然, 比較, 変化
- c. 文末 - 完了, 疑問, 思考, 進行, 否定
- d. 代名詞, 人称
- e. 連体
- f. その他: 動詞, 形容詞, 名詞, 助詞, 助動詞

さらに, 使用の目安として, 学術的文章作成に関わる次の観点による分類を付与した。

- a. 「話し言葉的」な語と比較的はつきり位置づけられるため, 学術的文章には避けるべき語
- b. 「書き言葉的」な語ともいえるが, 学術的文章では避けた方が望ましい語
- c. 「書き言葉的」な語と比較的はつきり位置づけられるが, 学術的文章の文脈・内容によっては使用に注意が必要な語
- d. 「書き言葉的」な語として学術的文章での使用に特に問題のない語

(2)分類結果

分類結果の例として, 接続・順接の一部を表2に示す。なお, 分類結果一覧は, 柏野(2016)で示している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

丸山直子「格助詞「に」と「で」の深層格 - 出現状況把握に向けての問題点の整理 - 」『東京女子大学日本文学』(査読無) 112, pp.175-194(2016 年)。

丸山直子「コーパスにおける格助詞の使用実態 - BCCWJ・CSJ にみる分布 - 」『計量国語学』(査読有) 30(3), pp.127-145(2015 年)。

柏野和佳子・奥村学「コーパスベース国語辞典」構築のための「古風な語」の分析と記述」『自然言語処理』(査読有) 21(6), pp.1133-1161(2014 年)。

表2 分類結果の例: 接続・順接

より話し言葉的な語	着目語	より書き言葉的な語 / 【論文にふさわしくない点ありとの注記】	使用目安の分類
なので	だから	したがって, ゆえに, それゆえ, ですから, そこで, その結果, よって, そのため	a
	なので	だから, したがって, そのため, よって, それゆえ, その結果, そこで, ですから, そのようなわけで	a
で	それで	ゆえに, それゆえ, したがって, そのため	a
だから, なので	ですから	よって, したがって, そのため	a
ゆえに	で	【適用中止形】	a
	ということ	したがって, これらより	a
どこ	ところ	結果, 時点	b
から, んで, し	ので	ことから, 【客観的であるという特徴以上に対等的な配慮という点で話し言葉的な性質が強い】	b
ですから, なので, だから	よって	それによって, したがって	c
だから	そこで	【科学技術文では使用しない】	c
だから, それで	ゆえに	【科学技術文では使用しない】	c
それで, だから, ですから, ということ, なので, 且, よって	したがって		d
だから, それで, ですから	そのため		d
だから, それで, なので	それゆえ		d
そうしたら, 結果, だから	その結果		d
で, し, くて, なくて	【適用中止形】		d

[学会発表] (計 3 件)

柏野和佳子「学術的文章作成時に留意すべき「書き言葉的」「話し言葉的」な語の分類」『計量国語学会第 60 回大会』(日本大学: 東京都世田谷区, 2016 年 10 月 8 日)

柏野和佳子・田嶋明日香・平本智弥・木田真理「学術的文章作成時に留意すべき「書き言葉的」「話し言葉的」な語の文献調査」『言語処理学会第 22 回年次大会』(東北大学: 宮城県仙台市, 2016 年 3 月 10 日)

丸山直子「助詞の使用実態 - BCCWJ・CSJ にみる分布 - 」『第 8 回コーパス日本語ワークショップ』(国立国語研究所: 東京都立川市, 2015 年 9 月 1 日)

[その他]

柏野和佳子「論文作成時に留意すべき「書き言葉的」と「話し言葉的」のリスト」成果報告セミナー『日本語で論文を書くときに気をつけたい語について』(ハノイ貿易大学: Hanoi, Vietnam, 2016 年 10 月 14 日)

木田真理「レポート・論文作成時に留意すべき副詞的表現」成果報告セミナー『日本語で論文を書くときに気をつけたい語について』(ハノイ貿易大学: Hanoi, Vietnam, 2016 年 10 月 14 日)

文献からの抽出語のリスト, 抽出した語の分類結果, 文献一覧等は, 研究利用希望者に配布している。ウェブサイト上での公開を予定している。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

柏野 和佳子 (KASHINO, Wakako)
国立国語研究所・音声言語研究領域・准教授
研究者番号：50311147

(2)研究分担者

木田 真理 (KIDA, Mari)
政策研究大学院大学・政策研究科・教授
研究者番号：80401727

丸山 直子 (MARUYAMA, Naoko)
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号：00199936

佐渡島 紗織 (SADOSHIMA, Saori)
早稲田大学・国際学術院・教授
研究者番号：20350423